

個人投資家向け会社説明会

—Change & Challenge
更なる成長に向けて—

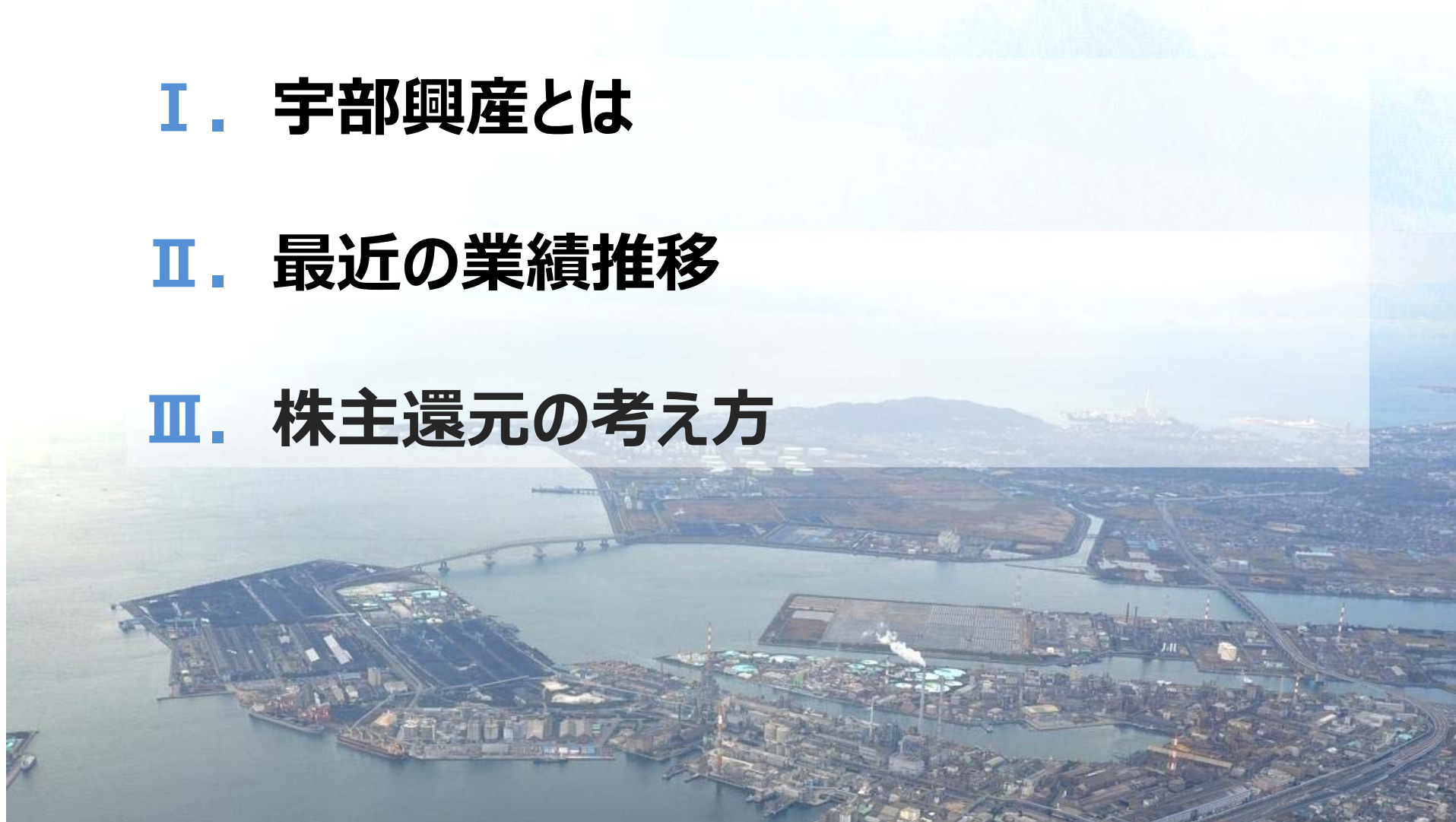
2015年10月

宇部興産株式会社

経営管理室 IR広報部
【証券コード：4208】

説明内容

- I. 宇部興産とは**
- II. 最近の業績推移**
- III. 株主還元の考え方**



I. 宇部興産とは

1. 会社概要

UBE

- ◆社名 宇部興産株式会社
- ◆創業 1897（明治30）年6月
- ◆設立 1942（昭和17）年3月
- ◆代表者 山本 謙



- ◆本社（東京）東京都港区芝浦
（宇部）山口県宇部市
- ◆資本金 584億円（2014年度末）
- ◆売上高 6,417億円（2014年度）
- ◆営業利益 241億円（2014年度）
- ◆連結子会社数 71社（2014年度末）
- ◆連結従業員数 10,702人（2014年度末）
- ◆上場取引所 東京・福岡（1949年上場）
- ◆単元株式数 1,000株

* 2014年度：2015年3月期

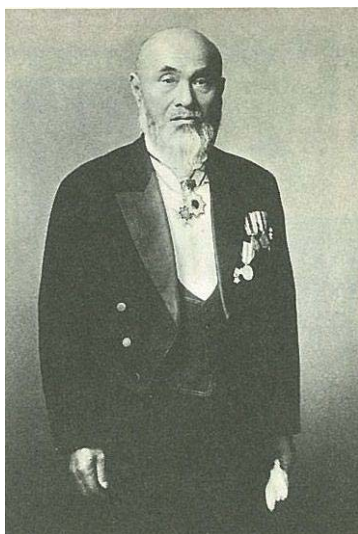
2. グループビジョン

UBE

UBEグループは「**共存同栄**」「**有限の鉱業から無限の工業へ**」という**創業理念**を踏まえ、下記のグループビジョンを掲げています。

技術の翼と革新の心。世界にはばたく私たちのDNAです。

フロンティアスピリットを胸に無限の技術で世界と共生するUBEグループは、次代の価値を創造し続けます。



初代社長 渡辺 祐策

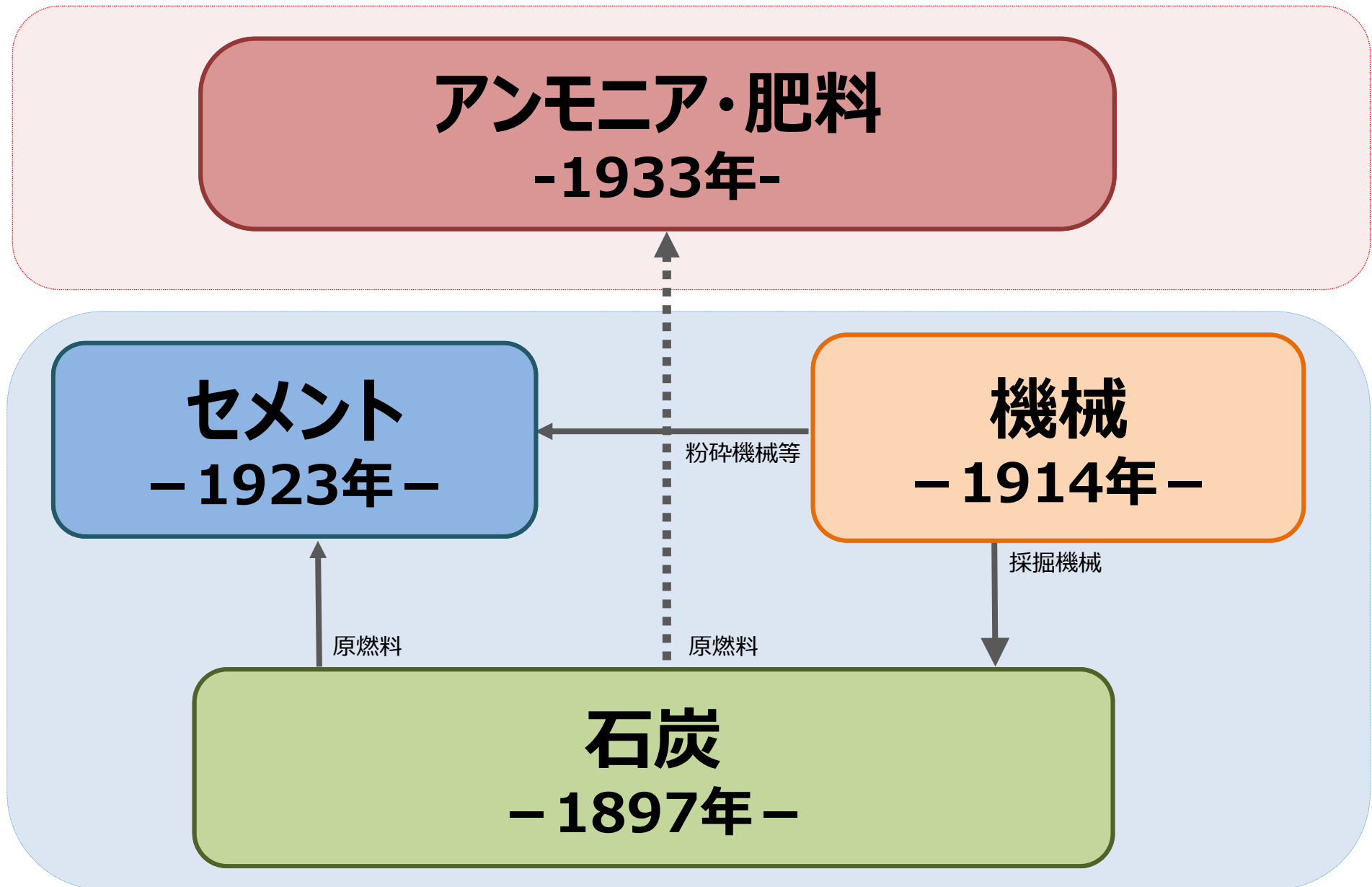
UBEグループは1897年、発祥の地、宇部で始めた石炭採掘事業以来、時代と産業構造の変化に対応し、常に自己変革を行ってきました。

その中で一貫して変わらなかった価値—それが「技術」と「革新」です。

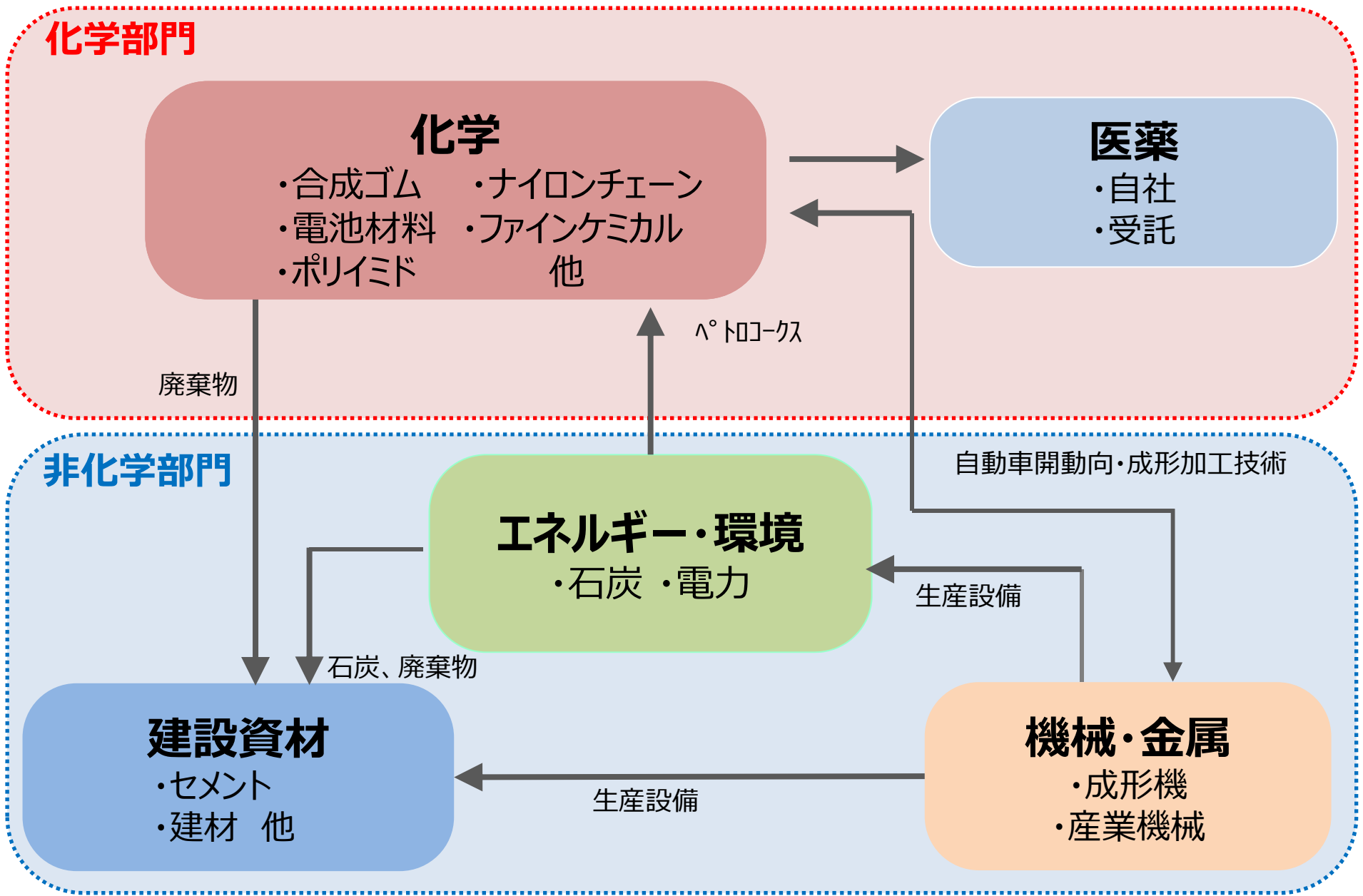
独創的な技術力による「モノづくり」中心の事業活動と、時代を先取りし、変化を怖れないチャレンジ精神は、現在もUBEグループ共通の価値観として、脈々と受け継がれています。

3. UBEのユニークさ(1) -創業時-

UBE



4. UBEのユニークさ(2) -現在-



5. 沿革-事業の歩み



<p>化学</p> <p>1933年 宇部窒素工業(株)設立</p> <p>1955年 カプロラクタム工場稼働</p> <p>1964年 千葉石油化学工場稼働</p> <p>1967年 堺工場稼働</p> <p>1967年 宇部日東化成(株)設立</p> <p>1982年 ポリイミド製造設備稼働</p> <p>1993年 スペインPQM社に資本参加</p> <p>1994年 電池材料用セパレーター製造設備稼働</p> <p>1997年 タイで操業開始</p> <p>1998年 電池材料用電解液設備稼働</p> <p>2003年 宇部日東化成子会社化</p> <p>2004年 宇部丸善ポリエチレン(株)設立</p> <p>2004年 機能品・ファイン事業新設</p> <p>2013年 中国電解液工場稼働</p> <p>2015年 マレーシア合成ゴム工場稼働</p> <p>2015年 化成品・樹脂事業と機能品・ファイン事業が統合・化学事業へ</p>
<p>医薬</p> <p>1995年 医薬品工場完成 (以降、第4工場まで)</p> <p>2011年 医薬品事業新設</p>
<p>建設資材</p> <p>1923年 宇部セメント製造(株)設立</p> <p>1955年 伊佐セメント工場稼働</p> <p>1965年 苅田セメント工場稼働</p> <p>1997年 宇部マテリアルズ(株)設立</p> <p>1998年 宇部三菱セメント(株)設立</p> <p>2013年 宇部マテリアルズ子会社化</p>
<p>機械・金属形成</p> <p>1914年 匿名組合 宇部新川鉄工所設立</p> <p>1999年 宇部興産機械(株)設立</p> <p>2013年 宇部興産機械とサービス会社 宇部テクノエンジニアが合併</p>
<p>エネルギー・環境</p> <p>1897年 匿名組合 沖の山炭鉱組合設立</p> <p>1980年 沖の山コールセンター完成</p> <p>2001年 エネルギー・環境セグメント新設</p> <p>2004年 IPP設備稼働</p> <p>2014年 メガソーラー発電設備稼働</p>

6. 事業概要（事業別売上高シェアと主要製品）

UBE

➤ 2014年度 連結売上高：6,417億円

化学

売上シェア44%
(2,801億円) ※1



- 合成ゴム
- ナイロン樹脂／原料
- 工業薬品
- 電池材料
- ファインケミカル
- ポリイミド

医薬

売上シェア1%
(78億円)



- 自社医薬（創薬）
- 受託製造

建設資材

売上シェア35%
(2,224億円)



- セメント／生コン
- 各種建材
- カルシア／マグネシア

機械・金属成形

売上シェア12%
(789億円)



- 成形機（射出成形機／ダイカストマシンなど）
- 産業機械
- 橋梁

エネルギー・環境

売上シェア10%
(667億円)



- 石炭貯蔵／販売
- 自家発電／売電

※2

※1：旧化成品・樹脂事業と旧機能品・ファイン事業を合算しています

※2：事業間の内部売上有るため、シェアを合計しても100%にはなりません

8. 身近なUBE製品（情報・電子・通信）

UBE



9. 身近なUBE製品 (航空・宇宙、エネルギー・環境、一般産業、インフラ)



10. 身近なUBE製品 (医薬・生活関連)

サッシ：押出プレス

防水材

入浴剤

ゴルフボール、靴底：合成ゴム

保存容器：ポリエチレン

食品ラップフィルム

便座、洗面台：ABS樹脂

食品ラップフィルム

電動工具、電動自転車：電池材料

食品パッケージフィルム：ナイロン6

壁材

スポーツ靴：ポリアミドエラストマー

化粧香料：ヘリオフレッシュ®

床材：SL材

薬：医薬原体・中間体

合皮ソファ：ファインケミカル

カーペット：カプロラクタム

カルブロック®

タロン®

エフィエント®

11. 全国の事業所

宇部地区主力工場地帯



伊佐セメント工場



北一化学(株)/小樽

(株)釧路宇部/釧路、中標津

(株)北海道宇部運送/苫小牧

建設資材事業 札幌建材営業所/札幌

(株)北海道宇部/札幌

宇部三菱セメント(株) 北海道支店/札幌

建設資材カンパニー
東北建材営業所

千葉工場



- 宇部本社
- 有機化学研究所・プロセス技術研究所
- 医薬研究所・無機機能材料研究所
- 宇部ケミカル工場
- 宇部セメント工場
- 技術開発研究所
- 沖の山コールセンター

伊佐セメント工場

苅田セメント工場

建設資材事業
九州建材支店

建設資材事業
広島建材支店

大阪支店

名古屋支店

堺工場

東京本社

千葉石油化学工場
有機機能材料研究所

12. 全世界の拠点



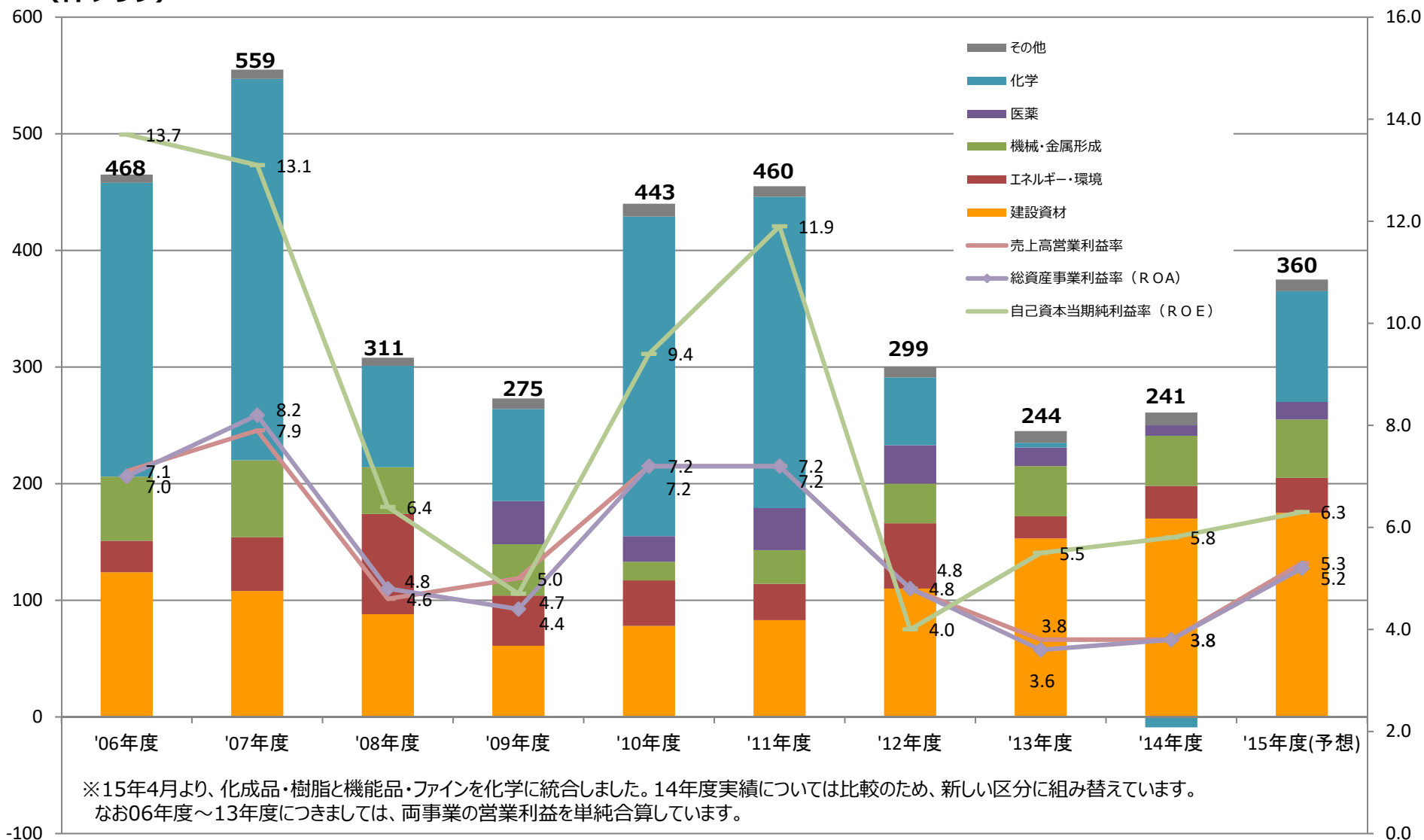
Ⅱ.最近の業績推移

13. 収益力の推移

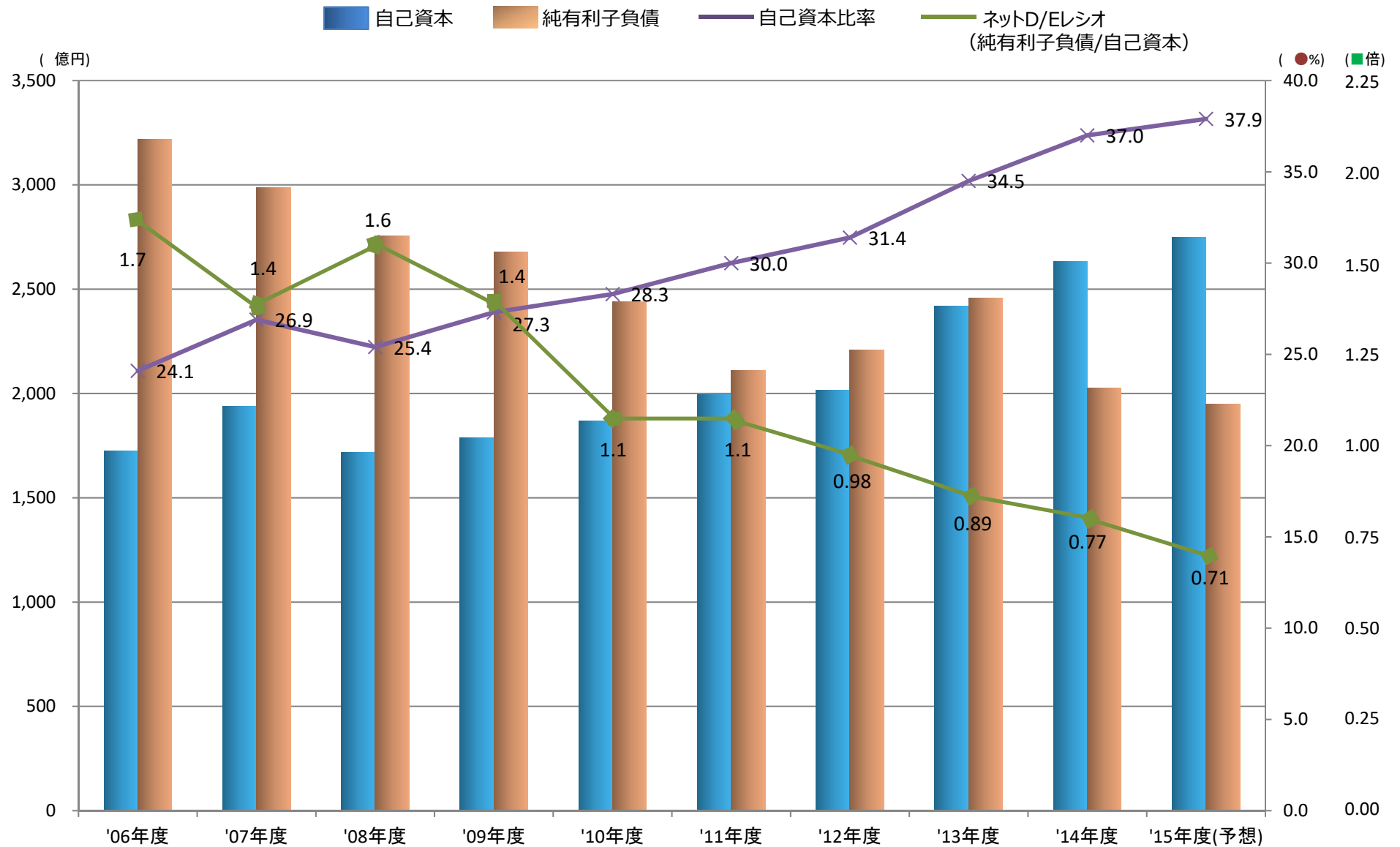


営業利益（億円）
（棒グラフ）

利益率（%）
（折れ線グラフ）



14. 財務体質の推移



15. '15年度業績予想 – 主要項目 –

UBE

●化学部門の一定の回復が収益改善に寄与

(単位：億円)

項目	'14年度	'15年度	差異
売上高	6,417	6,850	433
営業利益	241	360	119
経常利益	232	320	88
当期純利益	146	170	24
純有利子負債	2,027	1,950	△77
自己資本	2,633	2,750	117
配当(円/株)	5.0	5.0	0
配当性向	36%	31%	

16. '15年度業績予想 – 事業別損益 –

(単位：億円)

事業	売上高			営業利益		
	'14年度	'15年度	差異	'14年度	'15年度	差異
化学※1	2,801	2,920	119	△9	95	104
医薬	78	95	17	9	15	6
建設資材	2,224	2,420	196	170	175	5
機械・金属成形	789	835	46	43	50	7
エネルギー・環境	667	725	58	28	30	2
その他	173	140	△33	11	10	△1
調整額※2	△317	△285	32	△11	△15	△4
計	6,417	6,850	433	241	360	119

※1 15年4月より、化成品・樹脂と機能品・ファインを化学に統合しました。14年度実績については比較のため、新しい区分に組み替えています。

※2 セグメント間消去を含む。

UBEグループのあるべき姿

- 差別化された化学事業を中心に発展
- 多角化で経営環境の変化に対する安定性を確保

化学部門：成長の原動力

非化学部門：安定収益基盤



今後の取り組み

収益改善に向けスピードアップ

基盤強化により
利益のさらなる積み上げ

化成品・樹脂事業と機能品・ファイン事業を統合し、
「化学事業」へ

組織を一本化・大括り化し、化学部門の早急な業績回復
を目指す

- 一元的な事業戦略・技術戦略を立案実行し、研究開発から営業・販売に至る各機能を、より迅速に最大限発揮させる
- 化学部門全体を俯瞰した経営資源の最適配分により、事業の選択と集中を加速
- 組織の一本化・スリム化による業務効率の向上

トピックス（研究開発力の強化）

- 大阪研究開発センター新設
（2016年開所予定）
➡ 新商品創出の中心拠点へ

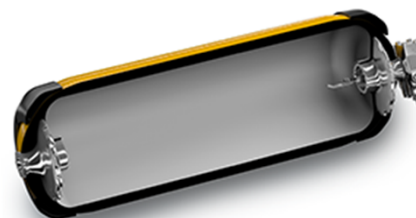


ナイロン・ラクタムチェーン： ナイロンの拡大戦略と高付加価値化へ

- 押出用途 更なる能力増強でグローバルNo. 1 へ
- 射出用途 世界供給体制を構築し、コンパウンド拡大へ
(自社生産・委託生産・M&Aなど)
- カプロラクタムは競争力あるナイロン原料として
抜本的なコストダウンを実施
(製法変更・
硫安大粒化など)



ナイロン製
食品包装フィルム



トヨタ「MIRAI」の水素タンクライナーに
当社ナイロンが採用



合成ゴム (ポリブタジエン) : 高機能グローバルNo. 1 へ

- 大手タイヤメーカーとの共同開発、特殊品化推進
- 顧客のグローバル展開や成長に応じた能力増強を継続

ポリイミドチェーン：新商品による拡販と新規用途の開拓

- **ポリイミド**：スマホ向けフィルム拡販に向け新商品の上市
フレキシブルディスプレイ用途の本格立ち上がり
- **分離膜**：航空機防爆用途など
新規分野の開拓

ポリイミド製回路基盤



電池材料：拡大する車載需要を 確実に取り込む

- **電解液**：遅れていた車載での採用開始
中国工場の稼働増
- **セパレーター**：
車載用に塗布型セパレーターの
本格出荷開始



リチウムイオン電池

ファイン事業：C1技術をベースにした事業の伸長

- 高級ポリウレタン原料製造を日本・スペインに次ぎタイで開始
- ライセンス事業の拡大（ポリエステル原料・電解液原料）



自動車内装用・床材用ウレタン原料使用例

医薬事業：ビジネスモデルを発展させ 安定的成長軌道へ

- 自社医薬は、パイプラインの充実と既存品の適応症拡大
- 自社・受託に加え、ジェネリック原体の開発開始



自社医薬品（抗血小板剤）

建設資材事業

足元の収益最大化と成長する基盤事業への布石

セメント・生コン：堅調な環境を活かし収益を最大化
石灰石、カルシア・マグネシア：石灰石チェーンの強みを発揮



伊佐石灰石鉱山

機械・金属成形事業 グローバル対応強化により収益拡大

製品とサービスの一体化の効果を追求し、グローバル・ネットワークの最適活用により、成長する海外市場での収益拡大を図る



ダイカストマシン

エネルギー・環境事業

既存ビジネスの拡大と新規事業創出による収益拡大

石炭事業：需要増への対応（例：石炭火力発電所）
電力事業：地域へ安定的に電力供給
再生可能エネルギー事業：メガソーラー、バイオマス



ユーエスパワー発電所

- ・'15年度…反転攻勢のスタート年として位置付け
- ・事業環境は引き続き厳しいが着実に手を打ち、
早期に**化学部門の利益を向上させ、UBEグループとして
あるべき収益構造への復活を目指す**
- ・改善された財務体質の下、攻めの投資(含むM&A)も拡大

⇒再び成長軌道へ



Ⅲ.株主還元の考え方

配当方針

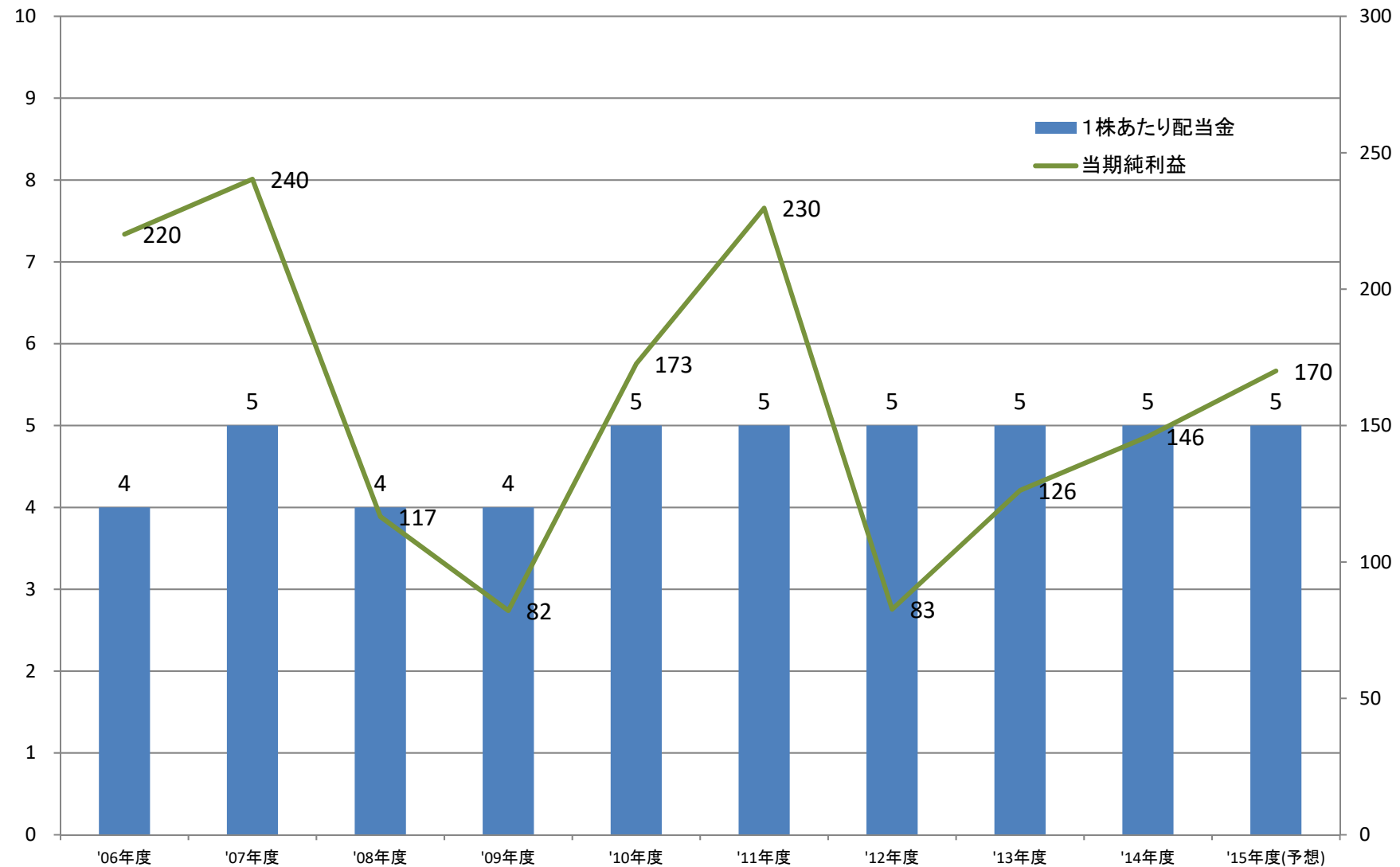
安定配当の意識を堅持し、今後の業績改善によるさらなる向上を目指します。

配当性向30%以上を目標
かつ
安定配当（'10年～、5円/株を継続中）

25. 配当の推移

1株あたり配当金(円)

当期純利益(億円)



配当性向	'06年度	'07年度	'08年度	'09年度	'10年度	'11年度	'12年度	'13年度	'14年度	'15年度(予想)
	18%	21%	35%	49%	29%	22%	61%	41%	36%	31%

技術の翼 革新の心

Wings of technology
Spirit of innovation

UBE

本資料における将来の見通しに関する記載は、当社が現時点で合理的であると判断する一定の前提に基づき作成したものであり、実際の業績はさまざまな要因の変化によって見通しと大きく異なる場合もあり得ますことをご了承願います。そのような要因としては、主要市場の経済状況、製品の需給、原燃料価格、金利、為替相場などがあります。但し、業績に影響を及ぼす要因はこれらに限定されるものではありません。

本資料の著作権は当社に帰属します。本資料のいかなる部分も書面による当社の事前の承諾なく複製または転用などを行うことはできません。